



日本の未来のために
教育について

防衛大臣政務官
衆議院議員

千葉県私立中学高等学校協会 会長
学校法人 聖書学園千葉英和高等学校 校長

小林鷹之 × 大羽克弘

TAKAYUKI KOBAYASHI

KATSUHIRO OBA

小林 千葉英和高等学校創
立70周年、おめでとうございま
す。敗戦直後の厳しい状況の
中、日本の将来を見据えて人
材育成に尽力された情熱と先
見性に敬意を表します。
大羽 ありがとうございます。
す。本校は、私の祖母の叔父で
ある仲田重治が、ホーリネス協
会を創り、1946年に重治
の次男の羽後と私の祖父の
大羽備が、元陸軍航空隊下志
津飛行学校跡地に聖書学園を
創立して現在に至っています。

小林 さて、日本の教育シス
テムを振り返ると、江戸時代に
寺子屋、藩校、私塾があつて、階
級の差なく皆が読み書きそろ
ばんを習得したことが、明治維
新後に日本が急成長できた要
因の一つであり、その後の高い
教育水準や技術立国日本の礎
になったのだと思います。
ただ、戦後の教育制度のあ
り方については、個性を尊重
し、育むこと自体は非常に重
要だと思つ一方、社会との結び
つきを教えていく意識が不十

分であると感じます。
例えば、戦前の教育方針で
あつた「教育勅語」。時として批
判されることもありましたが、「
親を大切に」「兄弟仲良く」
「目の者には敬意を払う」と
いった日本の伝統的価値観に
照らすと当たり前に思えるこ
とが書かれています。近年、驚
くような社会事件も生じる中
で、こうした当たり前の規範が
薄れつつあるからこそ、しっか
りとした道徳教育を行うべき
です。
大羽 教育勅語の基にある
のは、『論語』です。論語では親
や社会が規範となつていま
すからね。宗教も同様で、聖書に
も父母を敬うという教えがあ
ります。
道徳も重要ですが、一方で、
世界には様々な価値
観が存在してい
ます。これから
やらなくて
はいけないこ
とは、小さい
頃から、自国

防衛大臣政務官
衆議院議員
小林鷹之
国政報告

小林鷹之からの手紙
Vol.35

討議資料

自民党千葉二区支部小林鷹之事務所発行
(千葉市花見川区・習志野市・八千代市)



1 安全保障委員会にて、政務官として答弁
2 平成28年度自衛隊記念日観閲式(出典:
陸上自衛隊HP) 3 各国要人からの表敬
(右:インドネシア、左:ジブチ) 4 潜水艦
「せいりゅう」命名式・進水式でテーブ
カット 5 防衛大臣感謝状贈呈式懇親会
6 地元小学校の国会見学は元気の源!

小林鷹之 Profile
東京大学法学部卒業。ハーバード大学行政大学院修了。
財務省課長補佐、外交官を経て現在衆議院議員2期目。
防衛大臣政務官、衆議院安全保障委員会委員、自民党青
年局顧問等を務める。一女の父。

地元事務所
〒276-0033
千葉県八千代市八千代台南1-3-5 YYビル1階
TEL 047-409-5842
FAX 047-409-5843

国会事務所
〒100-8981
東京都千代田区永田町2-2-1
衆議院第一議員会館417号室
TEL 03-3508-7617
FAX 03-3508-3997

Facebook www.facebook.com/
hawk.kobayashi
twitter twitter.com/kobahawk
HP kobayashi-takayuki.jp

ミニ集会
小林鷹之と語る会
小林鷹之事務所では、小林本人
による国政報告と皆様からのご意
見を伺うためにミニ集会の開
催をお願いしております。5人
以上であれば、どこへでもま
いりますので、右記の地元事務
所までご連絡ください。

見学
国会見学
小林鷹之事務所では、国会見学
の受付やルート相談も承りま
す。見学をご希望される方は、団
体名、代表者名、参加人数(男女
別、大人子供別)、参加希望日
時、ご連絡先を右記の国会事務
所までご連絡ください。

ボランティア募集
小林鷹之事務所では、小林鷹之の活動をお手伝いして頂ける方を募集
しています(広報紙配布、ポスター貼り、イベントのお手伝い等)。
また、小林鷹之のポスターをご自宅や会社に掲示させて頂ける方も、併せ
て募集しております。ご連絡は地元事務所までお願い致します。



対談

小林鷹之 × 大羽克弘



の文化、国語や歴史を学ぶだけではなく、それと同じように他国の文化、言語や歴史を勉強し、相手の立場を認めていくということではないでしょうか。キーワードは「多様性」です。宗教や文化など、個々人の異なるバックグラウンドを互いに認める心の余裕が必要だと思いますね。

小林 島国である日本の成り立ちを考えれば、同質性・均質性に富んだ国であることは自然のなりゆきです。しかし、国際社会との共生を今後ますます意識していかなければならない中で、多様性を互いに認識し、認め合っていくことは今後の社会の流れだと思えます。その意味で教育のあり方は非常に重要です。

いわゆるインクルーシブ教育(※)もその一つですね。先日、『みんなの学校』という映画のモデルとなった大阪の大空小学校の校長先生の話や、特別支援学級を設けることなく、障害を持つ子ども達や特別な配慮を要する子ども達も健常者の子ども達と同じ場で過ごすことによって、子ども達

大羽 日本人は主張することが苦手とされていますよね。プレゼンテーションを教科に入れていくといいですね。

小林 私もそう思います。今の日本の教育に伸びしろがあるとすれば、いわゆるアクティブラーニングではないでしょうか。つまり、自分が主体的に意見を持ち、発信すること、そして議論を通じて異なる意見と折り合いをつけていく姿勢を育む教育ですね。言い換えれば、詰め込んだ知識をどのように社会に還元していくのか、ひいては社会の中で自分をどう位置づけていくのかということですね。

また、アメリカの大学院では「ソクラテス・メソッド」という教育も経験しました。先生が一人の学生に対して答えられなくなるまで質問し続けます。答えられなくなったら次の学生に質問していく、非常に緊張感のある授業です。こうした教育のあり方も参考にしながら日本の大学教育をより良いものへと進化させていくべきです。

大羽 日本は高校生の基礎学力は世界最高水準であるにもかかわらず、その後の伸びが止まってしまいう傾向があります。日本の大学生は楽



▲1946年創立時と現在の千葉英和高校

日本の未来のために「教育について」

が主体的に互いの立場を理解し合い、共生の大切さを学んでいく話を伺いました。また、八千代、習志野、千葉には外国人のお子さんも多すぎですね。様々な価値観に対して寛容であるべきですし、そのための教育も必要です。

※障害のある子どもを含むすべての子どもに対して、適切な教育支援を「通常の学級において」行う教育

大羽 子ども達の評価方法も、一律に数値化するだけでなく、もつと工夫があつて良いのではないかと思いますね。

大羽 一人の先生が40人の子どものを教える、これだけの成果を出す日本の教育は素晴らしいし、効率化された教育という意味では日本は世界のトップクラスにあると思います。しかし、効率的に点を取るだけではなく、豊かな発想力を養うためには新たな取組を行っていくことが大切です。その際、問題になるのは評価する側の教員の能力です。教員に十分な力がなければ、子ども達を適切に評価することはできません。

小林 そうですね。その意味では教員の力量もさることながら、家庭における(私も含めた)親の意識向上も大切ですね。

大羽 本来、子ども達への教育は、家庭・地域社会・学校が適切な役割分担をしてなすべき生活で満喫しながら卒業できてしまいが、海外はそうはいきません。日本の大学は卒業条件をもつと厳しくすべきですね。

小林 アメリカの学生は、勉強量が半端じゃない。24時間開いている大学図書館もあります。予習・復習の量が膨大ということもありますが、学生自身の目的意識も高いように感じました。

それに加えて、アメリカの大学教育で良いと思う点は、リベラルアーツ、いわゆる一般教養を徹底的にやることです。ピラミッドも、土台が広くしっかりしていないと石を高く積むことはできません。それと同じで、これからの時代、より深い専門性が求められるからこそ、基礎となるリベラルアーツ教育を日本の教育課程においてももつと取り入れていくことが必要だと私は考えます。



大羽 同感です。受験を意識せざるを得ない今の環境の下では、簡単なことではありませんが、リベラルアーツ教育を大学よりももつと早い段階から実施すべきだと思います。

小林 最後に、我が国が世界に誇る資源

れるものです。しかし、社会構造が変化することで、家庭教育や地域社会教育が崩壊しかけています。結果として、学校教育に大きな負担がかかっている現状を何とか改善する必要がありますね。

大羽 ところで、小林さんは米国留学を経験されています。日本と米国との教育システムの違いについて何か肌で感じたことはありますか？

小林 私が二十代半ばの頃に留学したのは、米国の大学院でした。クラスは50人の構成。殆どが米国人。最初の授業で先生が質問した時に、45人が挙手した衝撃は今でも忘れられません。手を挙げなかったのは自分を含め5人だけ。うち3人がアジアからの留学生。日本人(私)と韓国人と中国人でした(笑)。授業に対して主体的に、積極的に参加しようとする姿勢にカルチャーショックを受けました。欧米の教育では「自らの意見を持たないことは、そこにいないのと同じ」とみなされるため、主張することが了とされるのです。

は「人」です。日本の未来を担う子ども達には宝であり、無限の可能性を持っていますよね。昨今、「子どもの貧困」とか「貧困の連鎖」という言葉をよく耳にしますが、こうした負の連鎖を断ち切るには政治の責任です。どんな環境に生まれ育っても、子ども達には質の高い教育の機会を十分に確保していかなければなりません。未来の社会への投資です。子どもたちが大きな夢と希望を抱き、可能性に挑戦していくための心身を育てていけるように、よりよい教育システムの構築のために力を尽くしていきたいと思っています。本日はありがとうございました。

紙面の都合上、対談の内容の一部を抜粋して掲載させて頂きました。

